HOKKAI ism 【北海イズム】

北海校校友会〈事務局:北海高等学校内〉
〒062-8601　札幌市豊平区旭町4丁目1-41　TEL 011-841-1161㈹　FAX 011-824-5519
http://www.hokkaikouyu.com　編集責任者／広報・名簿部長　松岡　樹雄

北海 校友だより

平成28年度 2016.11.25
第57号

ism〈イズム〉意=主義・主張「持論を強く持っている」北海生が心の内に秘めている誇り、「北海魂」「北海プライド」「スピリット」などの総称として、新校友だよりのタイトルに採用させていただきました。



背番号のない、誇り高き選手達。

円山球場一塁側スタンドで駆け寄って来てくれた、同期の姿があった。32年ぶりの再会である。お互い長いブランクの事よりも球場で出逢ったことに驚きを隠せず、何故？ とたずねると「息子が、北海で野球がしたい」と北海の門を叩いたという。同期の息子が野球部と聞き、とても嬉しかった。「どこに居る!」「ベンチに入っているのか?」「体は、大きいのか?」と聞くと、苦笑いを浮かべ指差した先には、背番号のない選手達。(現在の3年生)　まだ、あどけなさが残る1年目だ!「あの中のどこかにいるわ」と高笑い。そうか、これからだな!厳しい練習に耐えて来年はベンチだなと期待を寄せる。「息子に頑張れ」と伝えてと言い、別れた。

その後も、野球部は勝ち上がり、応援に行く機会が増えた。その度に、「息子は?」と聞くようなった。同期の息子も2年生になり、チームは3年生を中心とした大型チームに仕上がっていた。当然のこと、36回目の甲子園を決めた。今回は、上級生に連れていってもらい、来年は、自分の代、自ら精進し背番号を付け、2年連続の出場をと願うばかりだった。

しかし、3年目なかなか勝てないまま。とうとう最後の夏が来た。残念だが、同期の息子の背中には番号がついていなかった。でも、私達OB・OGは知っている、北海で背番号を手にすることがどれだけ難しいかを。レギュラーと同じだけ走り、声を出し、率先して前に出ても、叶わない。悔しくて、蹲いている内に、センスある下級生が入部してくる。挫折しそうになる。複雑な気持ちをこらえチームの為に何ができるのかを考え、一足先に仲間に夢を託す。

最後の夏に、みんなで勝ち取った北海野球部史上初の準優勝。快挙の要因があるとすれば、それはサポート役に徹した控選手達の献身的な姿勢と友情にあったのではないだろうか。

校友会広報・名簿部(35期)

第98回 全国高校野球選手権大会



写真提供／道新スポーツ

〈北海高校野球部DATA〉1901年(明治34年) 創部116年
春(センバツ)12回出場●準優勝(1回)●ベスト4(1回)●ベスト8(2回)
夏37回出場(全国最多)●準優勝(1回)●ベスト4(1回)●ベスト8(8回)

母校の名をば　揚げんかな（北海高等学校　校歌四、の一節）

質実剛健　百折不撓を心に秘め
堂々たる準優勝

甲子園での応援後記

7月22日札幌市円山球場での札幌日大との決勝戦を応援し、見事開催前の下馬評を崩し、優勝。甲子園出場を掴み取った瞬間は不思議な感覚でした。その後勝ち進むに連れ史上最弱との文字を新聞等で見かけましたが、その評価は言い過ぎだと思いましたが、試合ごとに強さと自信をつけていく選手達を目の当たりにして、高校野球の凄さを感じました。

1回戦が大会6日目と流れが一旦止まりかけるかなと思いましたが、北海道での勢いそのままに勝利を重ねて行きました。それまで札幌で応援していましたが、とうとう準決勝進出が決まり、校友の皆様と同じく仕事が手に付かず、居ても立ってもいられない状況になり一路大阪へ。前日から同期の応援団長と祝杯を上げて、準決勝当日もはやる気持ちを抑えきれず、早めに球場入りしアルプス席のブラスバンドの上に陣取りました。結果は見事な勝利を挙げ甲子園で日本一の校歌斉唱する事が出来ました。ユニフォーム姿の生徒も大きな声でしっかり唱ってたのが印象に残りました。残念ながら深紅の優勝旗は持ち帰る事が出来ませんでしたが、「北海野球」ここにありと全国に知らしめた功績は大変素晴らしいと思います。

優勝旗は脈々と続く後輩たちが必ず持ち帰ってくれる事を信じ、甲子園を後に致しました。

校友会広報・名簿部
(高29期)菅原　一三

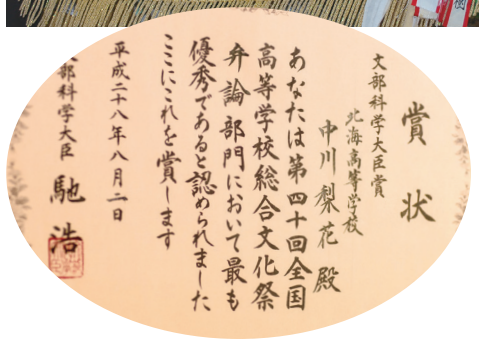


写真提供／道新スポーツ

弁論部 全国総合文化祭最優秀賞






賞状

文部科学大臣賞
北海高等学校
中川梨花　殿

あなたは第四十回全国高等学校総合文化祭弁論部門において最も優秀であると認められましたのでここにこれを賞します

平成二十八年八月二日
文部科学大臣　馳浩

北海道勢として1989年以来の快挙！

8月広島県三次市にて行われた、第40回全国高等学校総合文化祭弁論部門第62回文部科学大臣旗全国高等学校弁論大会にて、3年中川梨花が北海道初の最優秀賞を受賞した。北海弁論部は他の全国大会優勝を含めて3度目である。総文祭弁論部門としては北海道初の最優秀受賞である。9月には、群馬県館林市で行われた第64回全国高等学校決勝弁論大会に3年鬼原駿が出場。

平成28年度石狩支部高等学校弁論大会では課題の部に2年澤田真衣、自由の部に2年木原海理が出場。ともに最優秀賞を受賞し、支部団体1位を獲得。10月には標茶高校にて開催された全道大会には、1年長南花月を含め3名出場。澤田が優良賞を獲得し、11月に沖縄県那覇市で開催される第61回文部科学大臣杯全国青年弁論大会に出場する。

「第8回 土井晩翠先生作詞の校歌を一緒に歌いましょう」の会に参加して

北海校応援団OB会幹事長
高校31期 野村和宏



杜の都は仙台市。この地と北海とは浅からぬ縁で結ばれています。北海英語学校創立者の大津和多里先生、北海中学校二代校長 戸津高知先生、ともに仙台出身であります。また、北海が生んだ最高の頭脳といわれる黒川利雄先輩も東北大学の学長を務められました。

その縁の始まりから131年の時を経て平成28年10月16日。秋の気配が漂う杜の都、その中心地のほど近くに所在する土井晩翠先生の母校、仙台市立立町小学校にて。日本一の校歌を日本一の合唱にて披露しようと入念な打ち合わせが行われ準備万端整えて当日を迎えました。

そして本番。金井重雄校友会長の挨拶では、夏の甲子園全国最多37回目出場と今夏の準優勝で校歌が4度も甲子園で歌われたことを紹介すると、参加者、観覧者から大きな拍手をいただきました。校友一同は誠に誇らしい気持ちで応援団OBによる指揮のもと「日本一の校歌」を力一杯斉唱いたしました。



校歌斉唱時にはステージ中央に現在の北海高校の様子を映し出し、現在も日本一の校歌を大切に歌いつないでいる様子を紹介させていただきました。多くの方に「名門北海」を知って頂けたものと確信しております。

力一杯の校歌斉唱を終えた校友の顔には満足感漂う笑顔が溢れていました。主催者からは、「素晴らしい校歌斉唱で感動しました」とお褒めの言葉と感謝の言葉を頂戴しました。2年後の第9回にはさらに多くの校友の参加と、洗練された校歌斉唱を企画し仙台に乗り込みたいと思います。会の終了後には参加校友会員で土井晩翠先生が晩年を過ごした住居「晩翠草堂」を訪問し、先生への敬意と我らが仙台の地を訪れた証として高校13期で元教員の佐藤友久先生（書家名 佐藤辰舟）に書いていただいた書「暗よりあけし北海の空光明の訪れよ」を寄贈して参りました。

最後になりましたが、この催しにお誘いいただいた群馬県立太田高校応援団OB会長 野本智久様、北海道銘菓「白い恋人」をご協賛いただいた石屋製菓様、そして参加主旨にご賛同くださり心のこもったご寄付を頂いた高校26期会の皆様、高校29期松岡樹雄様、準備に大変な尽力を頂いた高校35期清川澄人様、素晴らしい書をご寄贈くださった高校13期佐藤辰舟（友久）先生。皆様から頂いたご厚情を心から感謝申し上げます。





校長ご挨拶

北海スピリットの輝き —忘れがたい夏に寄せて

校長 山崎省一



校友の皆様には、常日頃、さまざまな形で北海高校を支えていただき、心より感謝申し上げます。おかげさまで、北海高校は生徒が各分野で目覚ましい活躍を見せ、活気に満ちた雰囲気の中で131年目の歴史を刻んでおります。

とりわけ、この夏には硬式野球部が夏の甲子園大会で準優勝し、新たな輝かしい歴史を刻みました。北海球児のひたむきでさわやかな戦いの軌跡は、北海のスピリットそのものの輝きのように思えました。甲子園の空高く流れる校歌は、胸を熱くする格別のものがありました。昨年の秋以来の不遇・逆境を乗り越えて、一喜一憂せず自分たちの野球に徹し、準優勝という栄冠を獲得した野球部の健闘にあらためて賛辞を贈りたいと思います。そのひたむきな努力と頑張りは、北海生の大きな励みとなりました。熱く長かった夏、校友の皆様の大きなお力添えに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

また、8月に広島で開催された全国高等学校総合文化祭弁論部門では、本校弁論部の中川梨花さんが「対岸の光を見つめて」と題してスピーチし、最優秀賞（文部科学大臣賞）を獲得しました。昨年、修学旅行で訪れた沖縄での体験を踏まえ、戦争や正義について論じつつ平和を希求する内容となっています。3か月にわたって推敲を重ね、完成までに使った原稿用紙は100枚に上るとのことです。長年にわたって校内弁論大会を開催している本校としては、その弁論の伝統が全国の頂点で花開かせてくれたことに大きな喜びと誇りを感じています。

文武両道で北海生が活躍した2016年夏、その忘れがたい夏が終わり、学校は後期に入りました。3年生は進路決定のための大切な時期を迎えています。進学指導体制を強化すべくカリキュラムを改編し、量と質の両面で学習のグレードアップを図って3年目、完成年度となりました。生徒は順調に力を伸ばしてくれております。また、9月23日～10月7日、カナダLCI高校へ10名の生徒を派遣しました。LCI高校とは25年間にわたって教員・生徒の相互派遣を行い交流を深めてきましたが、LCI側の学校規模縮小などにより交流持続が困難になったため、今年度をもって交流が終結することとなりました。来年度以降は、新たにニュージーランドのウエリントン高校との交流が開始される予定で、現在その準備を進めているところです。

以上、学校の近況をお知らせしましたが、校友諸氏には今後とも変わらぬお力添えをお願い申し上げます。末筆ながら、北海校校友会の益々のご発展と、校友の皆様のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。



新任あいさつ

偉大な作品が残る校舎で教えること。

佐藤仁敬

今年度より、美術の専任教諭として着任しました。出身は滝川市、大学時代は石川県金沢市で過ごし、卒業後は主に札幌市の高校などで教えてました。北海高校は数えて6校目になります。北海高校は私の高校時代よりよく知っていて、特に美術の分野でいうと著名な芸術家を多々輩出している学校として有名であります。校内にはそういった先人たちの作品が並び、生徒玄関横には「わだつみ像」が在る。それらの作品を見て、北海高校の歩みの偉大さを感じます。かの先人たちを育てた学び舎で毎日教壇に立てることを誇りにもって、1日1日を大切にし、生徒とともに歩んでいこうと思います。

会長ご挨拶

歴史と伝統を今に

北海校校友会第十代会長（高校26期） 金井重雄



晩秋の候、校友会員の皆様には益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。会員の皆様方には日頃より校友会活動におきましてご理解ご協力をいただき、心より感謝と御礼を申し上げます。今年の夏、硬式野球部が夏の甲子園2年連続出場を果たし、決勝まで勝ち進む事ができました。全国の校友の皆様には、スタンドへ駆けつけ応援していただきました事、また、甲子園派遣募金等への多分なるご厚情ご支援に校友会を代表し重ねて御礼申し上げます。

昨夏の開幕試合での雪辱を誓って臨んだ戦いでした。多くの校友、北海ファンの皆様、そして道民の皆様の想いを託され迎えた決勝戦。作新学院に7対1で敗れ、惜しくも深紅の優勝旗を手にする事はできませんでしたが、堂々の準優勝でございました。本校創立131年、野球部創部116年にして初めての成績であり北海野球史に新たな歴史が刻まれました。卒業生4万人を持つ北海校校友会全員の気持ちを一つにさせ、感動と誇りを与えてくれた北海ナインに心から感謝を申し上げたいと思います。『北海健児の凛々しい姿を貴方達に見ました。』日本一の後輩達であります。

選手たちを育て、このたびの勝利へ導いてくれた平川監督、坪岡部長、立島コーチに敬意を表し感謝を申し上げます。また、山崎校長をはじめ学校関係者の皆様、野球部OBの皆様には、新たな歴史が刻まれましたこと心よりお喜び申しげます。

創立131年の歴史と伝統を今に、平成28年5月29日に「校友の集い」「校友会総会」と併せて盛会に行われました。『伝統継承、空光明のおとずれよ』をテーマとし、高校36期幹事の皆様が、応援団および応援歌の復活を切に願う内容でございました。昨年の甲子園において、球場内に校歌が流れました。その際、指示系統が出来ておらず歌わずに終わってしまったという、とても残念なことがありました。また今年は、ブラスバンドだけに頼る応援の仕方。東京支部より次のような要望がありました。スポーツの国際大会において日本選手のメンタリティを支えるのは「国旗と国歌」。無論、高校生のスポーツ大会、特に全国大会においても「校旗と校歌」が選手の気持ちを支え勇気を与えます。北海高校の歴史は131年間の長きに渡り刻まれ続けてきましたが、時代の変化とともに大切な伝統を置き忘れてきたことも事実です。それは北海特有の強いメンタリティ。生徒諸君が北海高校に誇りを持ち、校歌を歌いあげるメンタル教育が、今必要な時期と考えます。そのためには生徒と一丸となって校歌と応援歌を歌い先導する「時代に合った応援団の復活」。伝統の再起動を心から熱望する。というものでした。応援団が廃団となってから25年が経ち、その間、応援歌を正式に歌える卒業生が残念ながらおりません。

他校の応援を見ていると、伝統校とよばれる学校のほとんどが伝統の応援歌そしてチアガールやブラスバンドをうまく組み合わせて一つとなり、素晴らしい応援の形ができていました。今回の甲子園を教訓に我々校友会が本校と協力し合い、北海ならではの新しい応援の形を作って行ければと願うところです。

今年は、新支部として東北支部・後志支部・小樽支部の可動。また、応援団OB会が7月に発足式を終え、9月に第1回総会を開催いたしました。それに伴い、10月16日仙台にて第8回「土井晩翠先生が作詞した校歌を一緒に歌いましょうの会」に校友会として参加させていただく運びとなりました。東北支部・東京支部の協力を得て、応援団OBと伴に団旗を揚げ、北海校校友会此処にあり、と声高らかに校歌を歌いあげて参りました。（総勢20名、自費活動）何をもっての伝統校なのか。守り受け継ぐという事を考え、母校北海の偉大さに誇りを持ち、教職員・学校関係者の皆様はもとより、在校生ならびに校友会が一団となってその責務を果たして行かなければならないと思います。

ただいま高校36期幹事の皆様からバトンを受け継ぎ、平成29年度 幹事の高校37期が植 浩一実行委員長を中心に「未来永劫・これからもずっと」をテーマに準備を進めております。どうか校友の皆様には変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

末筆ながら、母校北海高の発展と校友の皆様の益々のご健勝を祈念いたしましてご挨拶と致します。

〈校友会発展に向けた 会長としての方針〉

- 健全な運営・維持（会費等のあり方）
- 会員の確立
  （同期会および各支部の活性化）
- 校友会組織の拡大
  （運動部・文化部・OB・OGの部会）
  ※（仮称）北海歴史記念館の建設（長期計画）

【我 心】
獅子となり 虎となりても 北海の
益荒男ぶりも 星のまにまに

今期の校友の集いを終えて。

北海校校友会高校36期
実行委員長
伊藤健一



本年度、開催致しました北海校校友会の集いにおきまして、多大なご支援、ご協力を賜わり誠に有難うございました。厚く御礼申し上げます。お陰様をもちまして、盛大に開催することができました。運営上、わからないところから、金井会長はじめ校友会の方々また、諸先輩に支えてもらい誠に感謝致します。本年度は、「伝統継承 空光明のおとずれよ」をテーマに高36期、できる限りの人力をつくしてまいりました。校友会の企画、協賛広告、集客人数等々、沢山の不安の中、諸先輩また、後輩たちにたすけられながら我々、高36期は団結し取り組んでこれました。



あらためて、北海高校の伝統の深さ、先輩、後輩、同期の絆を感じました。現在、生徒が応援歌を歌えないという我々卒業生としては悲しい現状の中、応援団の復活を願い企画してまいりました。校友会では、初の応援団の中に、女性の卒業生に参加してもらったり、歴代の応援団の先輩方々のインタビュー等、斬新な内容にどの様な反応がでるか不安ではありましたが、楽しんでいただいた声を多くもらい安堵しております。卒業しても、校歌や応援歌で繋がる北海であるためにも、後輩たちに伝えていきたいと考えております。

今年は、硬式野球部が夏の甲子園、準優勝という素晴らしい結果を残し、忘れられない年になりました。やはり、応援団がないのが寂しいでしたが…。次は、深紅の大優勝旗を持って来てくれることを楽しみにしてます。最後になりますが、校友会をきっかけに、同期の繋がりが深まり、仲間のありがたさに感謝致します。36期の皆さん、お疲れ様でした。そして、無事に校友会の集いを終えたのも、たくさんかかわって頂いた諸先輩、後輩の皆様のお陰です。本当に有難うございました。



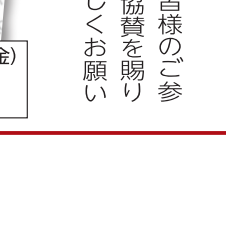
平成28年度 北海校校友会 校友の集い【出席数】

卒業期	出席数	卒業期	出席数
高校1期	2	高校29期	16
高校2期	7	高校30期	13
高校4期	2	高校31期	6
高校5期	1	高校32期	21
高校6期	4	高校33期	20
高校7期	3	高校34期	10
高校8期	1	高校35期	28
高校9期	1	高校36期	48
高校10期	2	高校37期	34
高校11期	13	高校48期	3
高校12期	9	高校49期	5
高校13期	1	高校52期	3
高校14期	4	高校53期	2
高校15期	1	高校55期	2
高校16期	5	高校56期	2
高校17期	5	高校58期	2
高校18期	4	高校59期	1
高校19期	3	高校60期	1
高校20期	5	高校61期	2
高校21期	1	高校62期	2
高校22期	4	高校66期	2
高校23期	3	高校68期	3
高校25期	7	教職員	17
高校26期	19	来賓	18
高校27期	11	卒業期不明	23
高校28期	7	合計出席数	481

※記載のない卒業期は出席0人

「平成29年度校友の集い」のお誘い

未来永劫これからもずっと。



高校37期実行委員長
植 浩一

本年度、校友会 金井会長より、来年度の当番期として、委嘱状を頂戴いたしました。

来年、創立132周年を迎える北海道を代表する伝統校北海は今もなお、全国にその名をとどろかせ、運動部そして文化部などの全国での活躍に、多くの卒業生が、誇りを感じ、校訓でもある「質実剛健」「百折不撓」の精神が受け継がれていることに、喜びを感じていることと思います。

我々37期のテーマは『未来永劫』と致しました、北海校での貴重な3年間で得た、友情や誇りをいつまでも持ち続け、そして、北海高の発展が、これからもずっと続くようにとの思いです。

来年度の校友の集いに向け、多くの先輩、そして多くの後輩の皆さんの笑顔を、脳裏に浮かべながら、我々37期は今、一丸となって準備に取り組んでおります。

何卒多くの皆様のご参加、あわせてご協賛を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



●開催日／平成29年5月26日(金)
●会　場／札幌パークホテル
●会　費／7,000円

HOKKAIism
〈平成28年度〉2016年11月25日

2017大学入試 進路決定状況

前年度の入試を振り返って

進路指導部長 秋山秀司

センター試験を前年度と比較して振り返ると、数学では、「数学Ⅰ・A」が6点ダウン、「数学Ⅱ・B」は9点上昇した。理科では「物理」が3点、「化学」では8点もダウンした。文理ともに受験生の多い「化学」選択者が、相対的に不利となった。また、「生物」と「地学」で、20点以上の平均点差がついたが、得点調整は行われなかった。英語については、センター試験が廃止され、新テストが導入されることになっているが、現行の試験にも、前年比で微増傾向にあり、関東圏からの流出は多くはないものの、東北への受験人数増加が目立つ。これらに対して、私立大学の入試にも大きな変更点が加えられるようになった。「インターネット出願の導入（または拡大）」と「英語外部試験利用型入試の導入（または拡大）」である。

インターネット出願は、受験生・大学ともにメリットが大きい。受験料も安価になるため、既に実施している大学では、受験生が増加中だ。また、英語外部試験利用型入試は、通常のペーパーテストでは測ることの難しい英語の四技能（「読む」「聞く」「書く」「話す」）の能力を効果的に測ることができることから、特に上位層の大学が導入し始めている。この場合、入試では英語の試験は行わず、他の教科の得点で合否判定を行うことになる。大学にとって大きなコストの導入時期に合わせて益々増加傾向で、特に志願者の増加が大きかったのは北陸と甲信越であった。中でも県立の看護・医療系大学の志願者は、前年度の7倍になっている。

側は奨学金新設などの対策を始めている。特に私立大学での奨学金制度は、年々充実している。関東圏（一都三県）以外からの受験生は、予約募集人数は、一二百～五百人の額約五十万円程度と大学によって差あり）が給付されるというものだ。四年間で一百万円が支給されるこれらの制度を見逃す手はないと考える。

この五年間、北海生の受験動向・合格実績を見ると、国公立・私大を問わず、生徒は、センター試験を前年度と比較して振り返ると、数学では、「数学Ⅰ・A」が6点ダウン、「数学Ⅱ・B」は9点上昇した。理科では「物理」が3点、未満。理科では「物理」が3点、点、「化学」では8点もダウンした。文理ともに受験生の多い「化学」選択者が、相対的に不利となった。また、「生物」と「地学」で、20点以上の平均点差がついたが、得点調整は行われなかった。英語については、センター試験が廃止され、新テストが導入されることになっているが、現行の試験にも、前年比で微増傾向にあり、関東圏からの流出は多くはないものの、東北への受験人数増加が目立つ。これらに対して、私立大学の入試にも大きな変更点が加えられるようになった。「インターネット出願の導入（または拡大）」と「英語外部試験利用型入試の導入（または拡大）」である。

インターネット出願は、受験生・大学ともにメリットが大きい。受験料も安価になるため、既に実施している大学では、受験生が増加中だ。また、英語外部試験利用型入試は、通常のペーパーテストでは測ることの難しい英語の四技能（「読む」「聞く」「書く」「話す」）の能力を効果的に測ることができることから、特に上位層の大学が導入し始めている。この場合、入試では英語の試験は行わず、他の教科の得点で合否判定を行うことになる。大学にとって大きなコストの導入時期に合わせて益々増加傾向で、特に志願者の増加が大きかったのは北陸と甲信越であった。中でも県立の看護・医療系大学の志願者は、前年度の7倍になっている。

側は奨学金新設などの対策を始めている。特に私立大学での奨学金制度は、年々充実している。関東圏（一都三県）以外からの受験生は、予約募集人数は、一二百～五百人の額約五十万円程度と大学によって差あり）が給付されるというものだ。四年間で一百万円が支給されるこれらの制度を見逃す手はないと考える。

この五年間、北海生の受験動向・合格実績を見ると、国公立・私大を問わず、生徒は、

二〇二五年度 合格先一覧

国公立大学 63名

北海道大学 総合入試理系3
北海道大学 総合入試理系3
北海道大学 経済学部1
北海道大学 工学部応用理工
北海道大学 小樽商科大学商
系学科1
学部6 北海道教育大学札
幌校3 北海道教育大学旭
川校数学1 北海道教育大
学岩見沢校美術文化専攻1
学岩見沢校数学1
音楽文化専攻1 帯広畜産
1 室蘭工業大学工学部応
用理化学系学科3 室蘭工
業大学工学部情報電子工学
2 北見工業大学バイオ環
境マテリアル系1 札幌医科
1 大学保健医療学部
学部作業療法学科1 札幌医
科大学保健医療学部
市立大学デザイン学部1
公立はこだて未来大学システ
ム情報学部6 名寄市立大
学保健福祉学部
名寄市立大学保健福祉学部
栄養学科1 釧路公立大
部栄養学科1 釧路公立大
学経済学部1 北海道職業
能力開発大学校 工学部1
弘前大学理工学部物質創
成化学科1 弘前大学理工
学部数物科学科2 弘前大
学理工学部機械工学科1
弘前大学理工学部電子科学
科1 弘前大学理工学部自
然エネルギー学科1 岩手大
学理工学部システム創成工
学科1 山形大学人文学部
法経政策学科1 山形大学
人文学部法経政策学科1
山形大学農学部食料生命環
境学科1 茨城大学教育学
部養護教諭養成課程1 埼
玉大学経済学部1 東京学
芸大学教育学部1 横浜国
立大学経済学部国際経済学
科2 金沢大学人間社会学
部学校教育学類1 静岡大
学1 広島大学理学部化学
防衛大学校理工学部1 高
崎経済大学経済学部経済学
科2 都留文科大学文学部
1 高知県立大学看護学部
看護学科1
北海道大学 医学部看護学科1
[道内私立大学] 312名
札幌大学 地域共創学群6
札幌大学 経済学専攻1
幌 札幌大学 経営学専攻2
大学 スポーツ文化専攻2
札幌大学 法学専攻2
大学 現代教養専攻3
学院大学 人文学部14
国際大学 人文学部6
子大学 文学部19
学 人間生活学部10
学 生涯スポーツ学部12
翔大学 教育文化学部9
星学園大学 文学部13
学園大学 経済学部4
学園大学 社会福祉学部6
北海学園大学 経済学部1部
1部26 北海学園大学 経営学部
部1部33 北海学園大学 法学
文学部1部17 北海学園大学 人
学工学部1部20 北海学園大学
経済学部2部14 北海学園大学
学部2部10 北海学園大学
医療大学看護学部3 日本
医療大学 保健医療学部看護
学科1
医療大学 保健医療学部看護
学部2
[道外私立大学] 130名
青山学院大学 経済学部1
青山学院大学 理工学部1
追手門学院大学 社会学部1
大阪体育大学 体育学部1
学習院大学 文学部1 神
奈川大学 経営学部1
川大学 外国語学部1 関西
大学 社会学部1 関西大学
総合情報学部1 関西学院
大学 教育学部1 関西学院
大学 神学部1 関東学院大
学 建築環境学部1 関東学
院大学 経済学部1 環太平
洋大学 体育学部1 環日本大
学 医療衛生学部1 京都学
園大学 バイオ環境学部2
京都嵯峨芸術大学 芸術学部
1 京都産業大学 文化学部
検査1 杏林大学 保健学部
学部2 近畿大学 総合社会
1 慶応義塾大学 文学部
慶応義塾大学 理工学部
慶応義塾大学 総合政策学部
1 神奈川大学 法学部
学部1 神奈川大学 経営学部
1 関西大学 政策学部
文学部2 國學院大學 文学部
開発学部2 国士舘大学 アジア
二十一世紀学部1 芝浦工業
大学 工学部1 東洋大学 経営
学部1 東洋大学 経済学部
部1 東洋大学 国際文化学部
古屋外国語大学 現代国際学
部4 名古屋外国語大学 外
国語学部1 南山大学 人文
学部1 日本大学 法学部2
日本大学 経済学部1 日本
大学 商学部2 日本大学
生産工学部1 日本大学 理
工学部1 日本大学 文理学
部1 日本体育大学 体育学
部5 日本福祉大学 福祉学
部2 広島経済大学 経済学
部1 富士大学 経済学部1
法政大学 文学部2 法政
法学部1 法政大学 経営
大学 法学部1 法政大学 文学部
大学 経済学部1 法政大学 経営
学部1 法政大学 社会学部
ション学部1 立正大学 社
会学部1 立正大学 地球環
境科学部1 立正大学 文学
部1 立命館大学 文学部
部1 立命館大学 産業社会
部1 立命館大学 経済学部
部1 立命館大学 映像学部2
立命館アジア太平洋大学 APU
龍谷大学 文学部1
龍谷大学 商学部1 早稲
田大学 人間科学部
早稲田大学 文化構想学部
1 早稲田大学 教育学部
学術院総合教育学部1
早稲田大学 社会科学部
1 早稲田大学 法学部
1 早稲田大学 政治経済学部
1 東京理科大学 理学部
1 東京理科大学 工学部
1 東京理科大学 経営学部
1 東京理科大学 創域理工学部
1 東京理科大学 薬学部
1 東京理科大学 工学部
1 東京農業大学 生物産業学部
1 東京農業大学 応用生物科学部
1 東京福祉大学 心理学部
1 東京福祉大学 教育学部
1 東京福祉大学 社会福祉学部
1 東京福祉大学 国際交流学部
1 東京福祉大学 伊勢崎キャンパス
1 東京福祉大学 保育

平成28年度 全国大会出場結果報告

男子テニス部

部員23名でほぼ毎日活動しています。団体戦での全道制覇を最大の目標とし、顧問・生徒一丸となって厳しい練習をしています。今年度は8月に大阪で行われた全日本ジュニアに3年生の伊藤昴が2年連続で出場し、大変貴重な経験をすることができました。

インターハイ全道大会では団体戦で第3位となり、個人戦でもシングルスで伊藤、白鳥がベスト8、ダブルスで伊藤・白鳥組がベスト8に入り、もう少しで全国大会というところでした。新チームになり、10月に苫小牧で行われた選抜全道に出場しましたが、団体戦は札幌日大に敗れベスト16という結果でしたが、個人戦シングルスで1年生の三上翔平がシード選手を2人破り選抜では初の個人戦3位に入り、将来への可能性を感じ大会を終えることができました。今後も悲願の団体戦での全国大会出場を目指し、日々努力を続けます。



陸上競技部

今年度も札幌支部大会を順調に勝ち上がり全道大会では多くの選手が上位入賞し、22名がインターハイ岡山大会に出場することができました。北海道内の出場高校の中でも特に多い人数の出場選手を出すことができ年々さらに一層北海高校陸上部は活気づいてきています。

全国大会という大舞台でも選手達は臆することなくベストタイムを次々と更新し特に3年女子4×400mリレーでは全国の強豪校にくい込む勢いで他を圧倒し、北海道ベスト記録を残すことができました。個人戦も各選手とも北海道の上位を制する勢いを見せ活躍することができ、チーム一丸となって協力し合い日頃の努力の成果を存分に発揮することができた事に大きな自信と成長を感じ、また来年度への夢を胸にして帰ってきました。

今後も各自の限界に果敢に挑戦する力強さと最後まで粘り強く戦いぬくチーム力という北海高校らしさを大切にして、さらなる向上を目指し頑張っていきたいと思います。



アイスホッケー部

8月2日から苫小牧市で行われた全国選抜大会に出場し、ベスト16という結果を残しました。1回戦は盛岡中央高校に5対0で勝利しました。2回戦は本州の強豪校である埼玉栄高校を相手に、第1Pは0−1、第2Pまでは2−3と接戦の展開でしたが、最後は勝負強さを見せつけられ、2−4で敗れました。

個の能力で勝る相手に、システムホッケーで対抗し、内容では互角の戦いをすることができ、今後につながるゲームと内容となりました。今後はこの大会優勝校である武修館高校をはじめ、駒大苫小牧・白樺学園など各地区の上位校を凌ぐチーム力をつけ、釧路で開催される全道大会、そして栃木県日光市で行われるインターハイに向けて準備していきます。応援宜しくお願い致します。



新体操部 全国大会出場にあたり

今年度は1年生が5名入り、1・2年生チームでの団体出場となりました。高体連全道大会では、「美しい演技」を目指して練習してきたことが形に現わすことができ、伸び伸びと良い演技をすることができました。結果は優勝を果し、8月に島根県松江市で開催された「全国高等学校総合体育大会体操競技・新体操大会団体戦」(インターハイ)に出場してきました。結果は、46位中26位でした。インターハイ出場は3年ぶりで、前年度の32位を大幅に上回ることができ、練習の成果を上げることができました。今後は、12月10日(土)～11日(日)に野幌総合運動公園体育館で行われる高体連全道選抜大会に出場します。優勝を決めて3月の全国大会に必ず出場を果たし、応援して頂いている皆さんに良い報告ができる様に努力していきます。



柔道部

柔道部はインターハイ全道大会で男子2名、女子3名。全日本ジュニア北海道大会で男子1名、女子2名。国民体育大会北海道予選会で男子1名が優勝し全国大会出場を決めました。

島根県で行われたインターハイ全国大会では男子個人戦90kg級で5位入賞をしたものの全国優勝を目標に取り組んでいたので、勝てる試合を逃し悔しい思いをしました。

選手権北海道予選団体では男子が優勝し、全国大会でも4回戦まで勝ち進みベスト16となり、夏に福岡で行われた350校の参加した金鷲旗大会のシード校にも選ばれました。これからも応援してくださるたくさんの方々への感謝の気持ちを忘れずに、日々精進していきたいと思います。



写真部

広島県で開催された第40回全国総合文化祭に小倉佑斗(2年)が出場。

2年連続の全国入賞は逃したものの、撮影会、講演会への参加は大変貴重な経験となった。10月4～6日に開催された高文連石狩支部大会には9名の部員が出品し、約2、000作品の中から全道に駒を進めたのは13作品(秋山瑠香(3年)、小林紀衣(2年)が準特選)、部員全員での出場を決めた。

10月19日～21日に開催された全道(帯広)大会では、小林紀衣(2年)が優秀賞候補作品となり、来年8月、宮城県仙台市で開催される第41回全国総合文化祭への出場を決めた。この結果、全国大会出場記録は、16年連続18回目と記録を更新した。


優秀賞候補作品「作品名:最後まで」　小林　紀衣(2年)

運動部の活動状況

女子バレーボール部

女子バレーボール部は、3年生6名、2年生5名、1年生10名の計21名で今年度の活動をスタートさせました。3年生にとっては最後の夏になるため、北海女子バレーボール部初の全道大会出場を目指して練習に励みました。それまでの取り組みにミーティングを重ね、チームワークの大切さを学び勝負にいどみました。後一歩のベスト16で終わりましたが、生徒たちは満足感や達成感を得て笑顔で終わることができました。

現在は新チームとなり、1・2年生での活動となっています。3年生の悔しさを心に秘め、来年こそは「HOKKAI」のユニフォームを全道大会で大暴れさせたいと思います。

男子バレーボール部

9月に行われた春高札幌地区予選で優勝し、11月に北海きたえーるで行われる春高北海道大会に出場権を獲得しました。3年生にとってはこれが高校最後の大会となります。インターハイ北海道予選では第4シードのチームに勝ったにも関わらず、目指していた結果を取り切れませんでした。夏に勝ち切れなかった悔しさを忘れずに残りの時間を過ごし、そして、今度こそはチームの目標である全道ベスト4を達成したいと思います。

剣道部

高体連支部大会では、男女共に全道大会の出場権を獲得し、女子個人では準優勝も獲得しました。全道大会では、男子は予選リーグで敗退。女子は準々決勝で惜しくも敗退(代表決定戦)しましたが「敢闘賞」を頂きました。結果はともあれ、男女共に「北海の剣道」を出し切った素晴らしい試合でした。これも偏に諸先輩方のご指導・ご支援のお陰と感謝申し上げます。

これかも頑張りますので、応援をお願い申し上げます。

サッカー部

北海高校サッカー部は、「素晴らしい選手である前に、素晴らしい人間であれ」を基本精神として、サッカーの技術向上だけでなく、部員全員が信頼され、応援される人間を目指しています。

選手権全道大会では、「全国出場」を目標に、チーム一丸となり、一戦必勝で戦い続けましたが、準決勝で敗れてしまいました。全校応援を力に、全力を尽くしましたがあと一歩足りませんでした。応援してくれた方々、今まで支えてくれた方々に、本当に感謝しています。本当にありがとうございました。

女子テニス部

インターハイ支部予選団体戦は、2回戦で札幌稲雲高校と当たりました。競った試合内容でしたが、1対2で敗退しました。個人戦では、ダブルス1が代表決定戦で敗退し、道大会の出場を逃しました。

6月から新チームとして始動し、「道大会団体戦出場」を目標に、練習に取り組んできました。秋季支部大会は、初戦に優勝した立命館慶祥高校と当たり、力の差を見せつけられ、初戦敗退に終わりました。

現在、人数の少ない2年生が、自分たちの実力向上だけではなく、1年生の実力向上にも努めています。今後の成長に期待をし、来年のインターハイ道大会に団体戦で出場できるよう頑張ります。

女子バドミントン部

女子バドミントン部は、3年生6名、2年生10名、1年生3名の部員が所属し、日々全道大会進出に向けて練習をしています。今年度は高体連札幌支部大会においてベスト8となり、3年連続で全道大会に出場しました。全道大会では、残念ながら1回戦で敗退しましたが、選手たちは自分の力を出し切ったと思います。また、今年度の伊達市で開かれました高体連全道大会におきましても、校友会の皆様より激励とお志をいただきました。大変ありがとうございました。今後も、選抜大会や次年度の高体連でも全道上位をめざし、がんばっていきたいと思います。

男子バドミントン部

我々の部は、生徒達で決めた目標である『全道優勝・全国大会出場』が目標でした。しかし、今年度の高体連では、全道ベスト4という結果で強豪校との大きな差を痛感しました。形だけの目標では強豪校を倒すことはできないため、本気でチーム全員の意識改革に取り組んでいる最中です。来年度こそ、大きな壁を乗り越えられるよう頑張っていきます。

今後の大会予定は、選抜全道大会が1月19日～21日函館アリーナ、来年度の高体連全道が6月中旬に滝川市で行われるので、OBの方々応援をお願いします。

女子バスケットボール部

女子バスケットボール部は全道大会出場を目指して活動しています。インターハイ札幌支部予選では、第5シードの東海大札幌高校と対戦しました。気迫の籠ったディフェンスが効き、3点差まで追い上げましたが、あと1歩届かず、残念ながら惜敗しました。現在新チームは、新人戦に向けて1丸となって練習しています。2年越しの雪辱を晴らし、絶対にシードを取り戻して、全道大会に出場したいと思います。

男子バスケットボール部

男子バスケットボール部は部員50名で、全国大会出場を目指し「百折不撓」の精神で練習に励んでいます。平成28年度高体連札幌地区予選で4位、また全道高体連大会においては、北海道3位の成績を残すことができました。これからも周囲の人たちへの感謝の気持ちを忘れず、チーム1丸となって頑張っていきますので、応援をよろしくお願いします。

卓球部

卓球部は現在、男子9名女子1名の計10名で活動しています。人数は少ないですが、1人1人が自覚を持ち、考えた練習を心掛け、全道ベスト4を目標にやっています。インターハイでは、団体戦、シングルスでは思うような結果が出ませんでしたが、ダブルスでは、3年生の藤田、川邊がベスト8に入りました。今後は、秋季大会、選抜大会に向けて、目標を達成できるように、日々の練習に取り組んでいきます。

弓道部

弓道部は、男女合わせて49人で活動しています。今年は男子団体が6月15日から17日にかけて旭川で行われた高体連全道大会に出場してきました。1次予選1立目8中、2立目17中の合計25中という結果を出し、1次予選を通過することができました。しかし、2次予選は10中に終わってしまい、決勝トーナメントに進出することができませんでした。悔しい結果になりましたが、今大会で得た経験を活かし、今後も部員一丸となって頑張っていきたいと思っています。

水泳同好会

現在、男子1名・女子3名の計4名で、普段は各自が校外のスイミングクラブに所属して練習に励み、各種大会に出場しています。北海高校としての出場はインターハイのみですが、常に北海高校の選手であることに誇りを持って全力で競技に臨んでいます。今年度は4名全員が全道大会に出場することができました。

来年度は、よりよい成績を出せるよう、また人数を揃えてリレーにも挑戦したいと考え、前向きに活動していきます。今後とも応援よろしくお願いします。

文化部の活動状況

美術部

美術部は10月7日～11日、札幌市民ギャラリーで行われた「第58回学生美術全道展」において、優秀賞2名、2年伊田光里(絵画)2年秋本明音(版画)奨励賞3名、3年工藤美音(絵画)2年秋本明音(絵画)1年結城凜(絵画)以上4名、5受賞になりました。次は「有島青少年絵画公募展」(会期10月29日～11月13日)に向け制作に励んでいます。来年3月の「どんぐり会展」はそれらの成果を展示しますので、是非お越しください。

合唱部

合唱部は、8月4日に開催された「NHK全国音楽コンクール」の札幌地区大会に、北海道科学大学高校合唱部と出場し、銅賞を獲得しました。これは本校の合唱部史上初の結果であり、今後の大きな励みになりました。

しかし、コンクール以上に私達が大切にしている活動は慰問演奏です。4月と9月には清田にある老人ホームで歌いました。また12月には札幌視覚支援学校の音楽部と初のジョイントコンサートを開催します。これからも音楽を通して生まれる絆を大切にして活動していきたいと思います。

文芸部

文芸部、現在部員は6名、全員女子です。

石狩支部大会には、詩部門、小説部門、短歌部門、俳句部門、部誌部門にエントリーしました。俳句部門で、2年宮森が佳作に選ばれました。部誌は全道大会への推薦を受けました。

全道大会は本校が当番校で、俳句部門と部誌部門に参加し、なんとか部誌部門でエチュード70が銀賞を受賞しました。当番校として「北海の生徒さんは、きびきびしている」と他校の顧問に言ってもらえました。

国際交流部

国際交流部は高文連主催の2つの大会に出場しています。1つは5月末に行われた全道高等学校英語プレゼンテーションコンテストです。全道から各校がテーマに沿った独自の企画をパワーポイントを用いて英語でビジネスプレゼンするというものです。

今年は参加し始め3年目で、テーマは昨年までとは異なり、「北海道がより多くの外貨を獲得する商品を開発、または紹介するための提案」という難しいものでした。全道から商業高校等も参加し、自分たちの学校で現物を作り、プレゼンする学校もありました。部員は何ヶ月も前から議論し、リサーチ、英作、パワーポイント作成等、発表準備をし、「アイヌの文様を商品化し、外国人の集まる観光地で移動販売する」という企画をプレゼンしました。

これまで2年間奨励賞を頂いていましたが、今年は残念ながら入賞には至りませんでした。2つめは10月に開催された英語弁論大会石狩支部大会で、2年生1名が出場し、「日本の待機児童問題」について独自のスピーチを行いました。

新聞局

新聞局は今春1年生あらたに10名を加え、10月現在29名(3年生12名、2年生7名、1年生10名)。

今年も4月に新入生向け歓迎冊子「北海タイムズ」を発行。7月の第196号では、「痴漢・盗撮対策」「スマホ」「沖縄」など身近な話題から社会的な問題まで特集を組んだ。特に「沖縄」については、安全保障やアメリカ政治史の専門家を訪ねて取材をすることで、沖縄を取り巻く状況を多角的に考えることが出来た。

さらに10月5日から7日まで士別で行われた全道高校新聞研究大会にも参加。全道新聞コンクールでは2年ぶりの総合賞を受賞した。

放送局

放送局は、現在1年生4人、2年生3人の計7人で活動しています。日々の活動は、毎日の朝放送、昼放送や学校行事の撮影などをやっています。大会は年に2回、NHKコンクールと高文連があります。秋の高文連では、1年生2名が朗読部門に出場しました。入賞はできませんでしたが、次回も頑張りたいです。ビデオ部門には出場することができなかったので次回は計画的に準備を進めて出場できるようにしていきたいです。

演劇部

演劇部は、3年生が7月の北海祭公演を持って引退し、現在は、2年生1名、1年生5名の計6名で活動しています。

高文連石狩支部大会には『THE GENIUS』という劇で参加しました。残念ながら努力賞という結果でしたが、他校の作品に大いに刺激を受け、良いものを作りたいというモチベーションは更に高まりました。次の公演に繋げたいと思います。

インターアクトボランティア部

6月に開催された国際ロータリー第2510地区インターアクト年次大会では、当番校として企画・運営に携わった。パラリンピックを意識して「障がい者スポーツ」をテーマに構成し、ブラインドサッカー体験を通して視覚障がい者の日常がいかに大変か、また、言葉での誘導がいかに重要かを学ぶことができた。日頃の活動では知的障がい者支援施設の訪問や各種街頭募金活動などを行っているが、今年は4月に熊本地震災害義援金のための募金活動にも参加した。ニュースや新聞で被害の大きさを知り「熊本のために何かしたい」と思っていたので、精一杯に声を出して募金を呼びかけることができ、街行く市民の方々もとても高い関心を寄せてくださった。

書道部

13名で活動して参りました。男子部員の増加が顕著な今年度であります。

釧路で行われた高文連全道大会には、5名が参加し、そのうち3年生1名が高文連賞を受賞しました。様々な視点から作品鑑賞と研修のできたすばらしい大会でありました。来年3月には昨年に続き4回目となる「樸星展」を開催できそうです。書道を通じて生徒共ども育ってゆけるよう奮励努力いたします。より一層のご支援お願い申し上げます。

吹奏楽局

今年度1年生17名、2年生14名、3年生7名の38名で活動してきました。今年度石狩地区高文連合同演奏会、学校祭、とよひらフラワーコンサート、演奏楽コンクール硬式野球応援と活動しました。特に甲子園での応援は全力で頑張りました。

支部・同期会 活動報告

教職員支部

本支部は、発足当初より研修会を継続しており、今年度は「中学校から望む高校教育」と題しまして、高校36期石山中学校教諭の幸正先生よりお話をいただきました。中学校から見た北海高校を率直に語って頂き、愛のある厳しい指摘と、期待の表れでもあるエールをいただきました。

その後の懇親会でも、懐かしい先生方にご出席いただき和やかに親睦を深めることができました。有難うございました。次年度以降も学校間同士の結びつきを大切に教職員支部を運営いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

九人の乙女慰霊歌「ああ氷雪の門」
日刊宗谷平成27年10月21日掲載 宗谷支部

昭和50年に九人の乙女を追悼する慰霊歌、「ああ氷雪の門」を作曲した、札幌在住の作曲家・伊丹壽一氏(70)が20日、稚内公園の九人の乙女の碑を訪れ、慰霊碑に献曲した。生憎の雨空の下、伊丹氏は「戦後70周年の節目にようやく訪れる事が出来た。感慨深いものがある」と話し、新たな慰霊歌の制作にも意欲を見せた。伊丹氏は日

HOKKAI ism
〈平成28年度〉2016年11月25日

本音楽著作権協会に所属、各地の市歌などを手がけ活躍している。

この曲はこれまで日の目を見ずにいたが、昨年北海高校同窓会に出席した際、市内在住の同期生・泉　武さん（高校16期）と「このまま埋もれさすには勿体無い」と意気投合。九人の乙女の碑を訪れることを決め、同会宗谷支部（田渕邦治代表）メンバーが快く協力した。献花には稚内職員など関係者が参加。全員で献花台に花を手向けた。

伊丹　壽一（高校16期）


稚内公園
九人の乙女の像
慰霊碑

ホクテン会

今年も「ホクテン会」を5月28日（土）、新宿で開催致しました。1年振りの再開ですが、出だしの挨拶は体調（肩、腰、足など）のご機嫌伺いから始まって、「喜寿」の話題が中心となるのは、卒業後58年も経つといたし方のないところ…。ビールからワインに替わった途端！往時の猛者ぶりが一気に高まった。スキー（池上、一戸、曽慶、穂高、進藤）、柔道（佐藤、大島、代永）、相撲（市橋、横山、）陸上（山本）、サッカー（大林）で大学や社会人になっても全国でも名を馳せた面々が揃っているため、話題には事欠きません。今年もまた使用会場の時間延長となってしまいました。

柔道の大島さんは、今でも東京都の柔道連盟の役員をされており、同期会の翌日が大学選手権大会で一番多忙なときもかかわらず顔出ししてくれました。元気で新鮮な話題で終始盛り上がりました。中でも大島さんは、高校当時から後輩の面倒見は定評があり、大学・社会人を通じて、今でもその気概は全く変わっていない。

今年も「札幌同期会」幹事の横山　仁様から、地元開催のビデオと10期のクラス別物故者名簿など、数々の情報の提供をいただきました。お陰さまで、札幌近郊の話題が従前に倍して多くなりました。ありがとうございました。

ホクテン会は、毎年5月最後の「土曜日」に開催日が決定しておりメンバーは少数ですが、同好の士の結束力は、ますます固くなってゆく気がします。



東京支部　総会
懇親会『絆と友愛』

平成28年10月8日㈯16時より新宿にて校友会金井会長、野村副会長、組織強化部大友氏、西日本支部土岐支部長、横山元教諭をお迎えして盛大に開催いたしました。東京支部は『絆と友愛』をテーマに幹事一同一丸となり準備を進め、今年度は2期の大先輩から66期のOGまで総勢91名（OG7名）で華やかに開催出来ました事、ご出席の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。母校北海を心から愛し、誇りに思い、素晴らしい先輩たちと愉快な同期と素敵な後輩達が北海の『絆』で結ばれ、北海『愛』で全員が高校生に戻れたアッという間の3時間でした。ご出席の皆様の楽しい会話と素敵な笑顔を見て、来年度も高校生に戻れる愉快な楽しい懇親会に沢山の皆様に出席して頂きたいと思います。91名で声高々に高田副支部長のリードで校歌斉唱して集合写真を撮り、「また、来年会いましょう」の出席者皆様の声で盛況の内に閉会致しました。来年度の東京支部総会・懇親会にむけて幹事一同10月29日の幹事会より活動して参ります。

東京支部支部長
柳　嘉友（高27期）
東京支部　幹事一同


東京支部の皆様より、将来の若者に少しでも役に立てられればと謂う思いで義援金が集められ、10月26日（水）に柳嘉友　東京支部支部長が毎日新聞本社を訪れ寄託されました。この事は10月27日の毎日新聞と北海道新聞に掲載され『毎日希望奨学金』として社会事業団体に預けられました。東京支部の皆様の熱い思いと建設的な行動は深甚に敬意を表します。

石狩市役所支部

石狩市役所支部（北海会）は、昭和44年に当時の石狩町役場の職員7名により創設され、以来47年間続いています。石狩市役所には多くの出身高校による支部がありますが、我が北海高校が最も会員数が多く現在、現役会員13名、OB会員20名となっています。活動は年に1度の納会（宴会）のみですが、締めに行う「フレ！フレ！北海！」のエールと校歌斉唱は毎回恒例となっています。通常年1回の開催でありますが、今年は夏の甲子園準優勝という輝かしい成績に黙っていることができず、緊急で8月22日に市内居酒屋にて祝賀会を開催し、急の開催にも関わらずOB会員含め16名の参加があり、大いに盛り上がりました。

又、当市役所には野球部があり監督含め主要メンバーは当支部の会員が占めており、高校時代に培った技術と質実剛健・百折不撓の精神を基に、本年、大阪で開催された第29回全日本治自体職員等野球選手権全国優勝大会ではベスト4の成績を残しています。

石狩市役所支部　支部長
今　井　康　博（高40期）

【北海アーカイブ】
高校2期
ダックス会会報より

三人の胸像

母校を訪ねると校長室の近くの廊下の一隅に北海の大先輩である南部忠平さんと黒川利雄博士のお二人の胸像が飾られていた。忠平さんは、いわずと知れた戦前のロス五輪の三段跳びで優勝、日本を代表するスポーツ界の重鎮として長年にわたって活躍されてきた。片や黒川博士は東北大医学部を卒業、日本のガン検診技術の基礎を築き、その功により文化勲章の受章の栄に輝き、東北大学の学長も務められたわが国医学界の至宝である。ともに母校を代表する文武両道の達人と言っていい。



母校にあるお2人の胸像は、その爪の垢でも煎じて飲ませたいという、学校の親心の現れといってもいいかも知れない。黒川博士は平成3年、91歳で、忠平さんは平成9年、93歳の高齢でともに世を去られた。雲の上といっていいこのお二人に生前、親しくお会いし、その謦咳に接することができた。忠平さんと初めてお会いしたのは、凡そ30余年前、日系移民移住70年の記念式典の取材にブラジルにでかけたときに偶然、ご一緒することができた。南部忠平といえば、ブラジル陸上界の指導者として三段跳びでブラジルで初の金メダルをもたらしたことで、日系人はもとよりブラジル国民にも有名人である。このときも「南部忠平来る」ということで、サンパウロ在中の北海OBたちが同窓会を開いて歓迎したのが縁で、帰国後も何度かお会いすることができるようになった。当時、忠平さんは鳥取の女子短大の学長をしていたが、来道したときは、道庁別館にあった「北海道海外協会」に必ず顔を出された。海外協会はある種の南米ロビーで、南米にゆかりの面々がそのたびに、仕事を投げ出して駆けつけ、忠平さんを囲んで、酒を酌み交わしながらブラジルの思い出話などにふけったものである。当時、忠平さんは70代前半だったが、元スポーツマンらしくいつお会いしても背筋がピンとしたのが印象に残っている。

黒川博士とお会いしたのもそのころで、すでに引退されたままで「山上に山あり」という自伝を発表されたのを機会に、当時、北海道新聞社で発行していた雑誌の編集長をしていた小生が、雑誌の対談相手としてお招きしたときである。「山上に山あり」とは大正3年、博士が北海中学校を卒業され、仙台の第二高等学校に入学したとき、母校の校長に報告したところ、返って来た返事に記されていたという言葉である。当時の校長は、北海中学の事実上の創始者あり、代議士としても活躍されていた浅羽靖先生で、その胸像はいまも学園の前庭に残っている。

そのときの返事とは「山上に山あり、山また山」とあって「君は非常に優秀な学生だったが、小さなことに満足せず、努力せよ」という戒めの言葉だったという。対談のときは、博士はすでに70代後半だったが「研究に行き詰まったときなど、先生のこの言葉を思い起こして自らの励みにしたものです。」と懐かしげに話されていた。

山上はおろか、山の中腹でうろうろしてきた一後輩のみた巨峰の思い出である。

執筆
相　神　達　雄（高校2期）

北海校校友会
後志支部
設立総会開催



当支部としましては、おかげ様をもちまして平成28年3月に正式に発足いたしました。総会当日3月5日は高校26期前田利幸様（後志支部支部長）経営の余市町「やき肉 炭番屋」にて、校友会金井会長、二瓶副会長、野村副会長、佐藤組織強化副部長を招き、後志支部からは8名の会員が参加。初回の開催ではありましたが盛大に執り行うことができました。ご来賓としてご出席いただいた金井会長のご挨拶ならびに野村副会長の議事進行のなかで、現在の学校の状況や校友会活動状況などをご説明いただき、校友会の活性化や支部発足の重要性を改めて認識致しました。総会終了後、佐藤組織強化部副部長の乾杯のご発声にて懇親会が執り行われ、在学当時の思い出に浸りつつ会員間の親睦を大いに深めることができました。懇親会終焉は、北海校校友会恒例である校歌および応援歌を全員で斉唱し、盛大なまま懇親会を終了、又の再会を誓いました。

北海校校友会
後志支部事務局幹事長
澤　崇　之（高40期）

北海高校20期卒 成人会



恒例の20期の成人会を定山渓「鹿の湯」で開きました。以前はススキノのホテルで永らく開催しておりましたが、昨年より1泊でゆっくりと湯に浸かり懇親会・二次会で高校時代、子育て時代、そして現在のシルバー時代と話し尽きる事がありませんでした。

私達は昭和43年卒業で、あと1年半で卒業50年になり極まる思いです。その間、我学友に幾多の人生の道があり私達が把握するだけで45名が故人になっており今回も成人会に出席したいと話していた仲間もおり大変残念な事です。

二次会において東京在中の小沢君が甲子園での母校野球部の大活躍をDVD製作し東京から出席した塩垣君に託し我々出席者全員が再びあの感動を味わう事が出来ました。

在校生の皆さん私達成人会は心からありがとうと叫びます。卒業生の全てが同じ思いだと信じています。最後に北海高校の新しい歴史と校風を作り上げ同期会を開いてください。

北海高等学校26期同期会総会・懇親会の報告



平成28年10月1日(土)、19時からホテルノースシティーにおいて北海高校26期会の総会と懇親会が開催されました。当日は、校友会会長の金井重雄(26期会会長)のほか、卒業当時の担任教師4名様のご来席を頂き、同期会員49名と合わせて総勢53名の出席となりました。開催に先立ち、北海校校友会の金井会長から挨拶があり、校友会の現状や今後の取組みなど、今までなかった支部会・同期会・応援団OB会などが、次々に新たに立ち上がり、「北海」を中心とした組織が強く大きくなってきている話や、10月16日(日)に仙台で催される『土井晩翠先生の作った校歌を一緒に歌う会』に参加者全員が自費で参加することになった経緯など、公式の場ではなかなか言えない会長の熱い思いが伝わる話に、26期会の熱い思いで急遽カンパが集まりその思いを金井会長に手渡す形となりました。

26期会総会では、27年度の事業報告・決算並びに28年度事業計画・予算等が会員のご理解により、全て原案通り承認されました。

総会後、横山先生の乾杯の音頭により懇親会が開催され、主な話題は硬式野球部の準優勝の話題を中心に、60歳定年を迎え第2の人生に移行した人が数多おり、そのため今まで地方勤務だった多くの者が、札幌に帰ってきたことにより懐かしい顔ぶれが増えたことなどいつも以上に酒も進み、最後に保原先生の後期高齢者の厳しい生き方の話を織り交ぜたユーモアあふれる締めのご挨拶を頂き、全員で高らかに校歌を歌って来年の再会を誓い閉会となりました。

旭川支部



校友会旭川支部の総会を9月10日、旭川の天金本店で17名の参加で開催致しました。外崎支部長挨拶のあと、金井校友会会長・金村事務主任より、今回の野球部甲子園大会に対して物心両面からの支援と絶大なる声援に感謝の言葉を頂きました。更に金井会長からは、決勝当日のアルプススタンドの盛り上がりを熱く語って頂きました。

懇親会に入っても会員同士で大西投手の5試合の力投や試合後の相手チームに対しての挨拶や相手投手に食らいつく各打者について、プチ評論家になってあちこちで盛り上がりを見せていました。終盤に入り高屋敷室蘭支部長より近況報告、校友会次期実行委員、植様より旭川支部からも多数の参加で成功させたいと要請がありました。最後に恒例の「北海ダービー」で盛り上がり校歌斉唱で閉会致しました。皆様のご協力有難うございました。

旭川支部　幹事長
大物　久夫(高22期)

オホーツク支部



紅葉深まる10月29日(土)18時30分より、「肉のなごみ」で校友会金井会長はじめ、野村組織強化部長の2名のご来賓をお迎えし「平成28年度オホーツク支部総会・懇親会」を開催いたしました。

総会では、北海高校の山崎校長様からお祝いのメッセージがあり、昨年度の行事、会計報告及び金井会長からお話を頂き、校友会のさらなる発展を確信いたしました。その後、佐藤副支部長の乾杯により親睦と交流深め、スピーチで近況を伝え和やかに旧交を温め全員でスクラムを組んで校歌を声高らかに歌いました。最後に次回に向けて体力の維持増進を努力目標として、楽しいひと時と二次会を楽しみました。

当日、参加者は10名でしたけど、不参加のオホーツク支部の校友の皆様次回はよろしくお願い申しあげます。校友会本部よりご参加いただきお心遣いに感謝申しあげます。

十勝支部総会



今年度の総会は、例年より少し時期をずらし10月1日の開催となりました。

十勝管内では8月30日に上陸した台風10号によって多くの災害がありました。道路や交通機関においても未だ日勝峠やJR根室本線などまだ開通していない状況です。そのような大変な中でしたが、母校校友会からは二瓶副会長、野村副会長に駆け付けていただきました。

今年度は十勝ガーデンズホテルにて開催しましたが、会の初めには、昨年残念ながらお亡くなりになった平田前十勝支部支部長、そして松原幹事に対しましての黙祷から始まりました。十勝支部としては非常に悲しい1年となりましたが、柳澤新支部長の新たなる十勝支部の決意のあいさつで幕開けとなりました。

そして、ご来賓あいさつでは野村副会長の、校友会の現状を聞きながらこれからの校友会に際しての取り組みの流れもお聞きすることができました。

総会も無事に終了し、二瓶副会長の乾杯のもと懇親会が始まりました。例年のごとく参加者全員の近況の報告・紹介で会場は一気に盛り上がりましたが、野球部が甲子園で準優勝の後ということもあり、また今年3月に帯広から転勤で札幌に戻られた高28期の小林さんも参加いただき、その盛り上がりは言うまでもありません。

その後も夜の帯広に流れ、今年度も非常に有意義な会となりました。会の参加者は12人と例年よりちょっと少なかったのですが、来年は現在十勝支部での把握している名簿数63名の3分の1の21名の参加数を目標とし、より有意義で楽しい支部を目指して活動していきたいと思っております。

皆様も十勝へ転勤の際は、ぜひご一報下さい。よろしくお願いいたします。

十勝支部　事務局長
星野　啓二(高39期)

第29回 江別支部総会及び懇親会開催



6月25日(土)毎年行われている我々の先輩が経営されているレストラン「あおい」にて開催、今年は本部から二瓶副会長様が大変お忙しい所ご出席頂き総勢17名(当初予定20名)の宴会となりました。最初に我々の支部の亡くなられた方々へ黙祷をし、そして27年度の決算報告・28年度予算報告等が承認され、又、現在の高校の状況等が報告されて総会は終了、そして高校4期の大江先輩の音頭で乾杯をし、楽しい懇親会に入りました。今回始めて参加された方が3名おり、その方達の自己紹介や名刺交換など又、本部の二瓶副会長からは校友会の現状のお話などを頂きました。

毎年恒例のビンゴゲーム(景品全員に当たる)や(会員からの贈呈品)等で最高潮に盛り上がり楽しみました。最後は我々支部に応援団に所属していた野村幹事によるエールで応援歌・校歌を斉唱し、この会を立ち上げました高6期の林大先輩(昭和61設立の締めの音頭で来年はもっと参加人数を増やし、元気で再会しようとなり2時間半の予定があっという間に終了し、散会となりました。幹事は林先輩の教訓にて来年は何としてでも50名は集めようと早めに行動して達成しようと思います。本部の二瓶副会長様には御出席頂きありがとう御座いました。

支部長　長　光雄(高校16期)

道南支部

平成27年度道南支部総会・懇親会を平成27年11月14日(土)函館湯の川温泉・花びしホテルで開催いたしました。当日はご多忙のところ校友会　金井会長、二瓶副会長、野村副会長、松岡広報部長にご出席いただき、校友会の近況、活動状況等についてお話を頂きました。また、28年度校友の集い当番期の高校36期の担当役員2名もご参加いただき、PRもしていただきました。道南支部会員も高2期から高57期までの出席をいただき、例年同様、校歌&応援歌をBGMに、懇親を大いに深めることが出来ました。当日ご参加いただいた校友会役員の皆様、28年度校友の集い当番期担当役員の皆様、そして道南支部会員の皆様に感謝申し上げます。

28年は、道南支部にて2月に新年会・7月にビール会(ビアガーデンにて)・8月には夏の甲子園　準優勝を祝う会を開催させていただきました。

今年も11月12日(土)寿司のます屋(高32期故遠藤)に於いて開催いたします。今後も道南支部役員及び会員全員で、盛り上げていきたいと思います。宜しくお願いいたします。

支部長　室田幸治(高32期)



来年は喜寿のお祝い再会を誓って(高校10期会)

平成27年11月5日(木)札幌ガーデンパレスで4回目の同期会を開催、来賓として松竹谷先生をお招きし、17人が出席。初めて参加したのが中村孝雄君。

平賀典明君の司会により、幹事長宮坂明由君からの開会宣言、そして昨年より4人多い、70名の物故者に対する黙祷の後、来賓としてご臨席いただいた松竹谷先生から相変わらずのユーモアたっぷりのお話。

続いて武市芳清会長の挨拶、前回司会を務めた笹林政君の「我々も松竹谷先生の85歳まで頑張ろう」の発声で開宴。恒例の参加者全員からの近況報告では

・高齢者の健康づくりに取り組んでいる。
・孫が北海へ通っているという者が3人、嬉しそうに報告。
・今は亡き、社会の飛沢先生、国語の新谷先生、社会の波田先生との懐かしい思い出話。
・来年は我々も喜寿を迎える、又元気で会おう。

等・様々な報告があった。

その後、次回の新幹事として4名を選出。吉田　伸二君の音頭により校歌斉唱。締めの乾杯は三ツ野庄治君の「バンザイ」で結構な時間オーバーの同期会であった。

なお、遠く東京で活動のホクテン会(高校10期)では出席常連者でスキー部の曽慶健市君が6月26日肺癌で逝去され、心よりご冥福をお祈りいたします。

平成28年も11月24日喜寿のお祝いを開催いたしました。

平成27年度

出席者の面々(写真)

※印は今回の持ち回り幹事

(来賓)松竹谷智先生
池田政照　岡田武義
笹林政喜　神　政憲
※武市芳清
武田幸晃　中村孝雄
橋　辰男
※平賀典明
前田暈平
三ツ野庄治
※宮坂　明由
※横山　仁
※横山弘美
※吉田伸二
米谷　実
(幹事長 宮坂明由)



祝　古希　高校17期同期会

平成18年に開催した還暦同期会後、「校友の集い」にあわせて同期会を開催していましたが、長年の勤務も終えた、今年「古希」を迎える元気な級友に久しぶりに再会し、思いで話や近況を話し合ったりするため、同期会を企画しました。高校17期会の「古希」をお祝いするかのように、創部116年目、全国最多37度目の夏、北海健児は堂々と甲子園準優勝の栄誉に輝きました。甲子園球場に4回の校歌が流れ、球場で、また、テレビの前で一緒に歌った方も多いかと思います。

校友会事務局の協力をいただき、190名に案内を出し、返信103名、出席者は28名で、道外(名古屋・横浜・東京・千葉)や、道内各地からの参加もあり、皆元気で老いなど感じられませんでした。同期会は、9月30日(金)、10月1日(土)定山渓ビューホテルで開催し、9月30日(金)には真駒内カントリークラブ(空沼コース)で6名の参加によるゴルフコンペを行い、同期会はその夜、校歌斉唱、物故者黙祷、写真撮影で懇親会に入り、懐旧談にふけつつ、また一人ひとりが近況報告を行いました。場所を移しての二次会では、卒業アルバムを見ながら52年前の北海健児に戻り、大いに盛り上がり夜中まで楽しいひと時を過ごしました。楽しく有意義な時間はあっという間に過ぎ、またの再会を約束し散会しました。



校友の動向

3年間培った北海魂

高校68期卒業　村上真梨子



私は3年間バスケットボール部に所属していました。小3から競技を始め、小・中と共に色々な試合経験をさせて貰い、高校でも頑張りたいと言う強い思いから北海高校に進学しました。在学中は慢性的な足の痛みとの戦いでもありましたが辛くても頑張って来れたのは勝ちたい気持ちと仲間のお陰でした。顧問の小澤先生を始め諸先輩方、後輩達、仲間の全員の力で新人戦全道8位になる事が出来たのは最高の思い出です。

学校生活でもクラスメイトと共に野球部やサッカー部の全校応援等も含め色々な行事を楽しむ事が出来　北海高校を選んで本当に良かったと思います。

私は今、小学生の頃からの夢で美容師になる為に上京し、東京モード学園で学んでおります。東京を選んだ理由は、両親に甘えていた自分を見直し、親元を離れ最先端の技術を学び、東京で勝負したいと思いました。負けないよう日々努力をし、いつか第一線で活躍出来るよう3年間培った北海魂で頑張って行こうと思います。

車椅子ソフトボール普及と発展の為に

株式会社デービスアクト　ブランディング事業部
一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会 事務局長
高校49期卒業　山田憲治



私は札幌の広告会社に勤める傍ら、日本車椅子ソフトボール協会の事務局長としても活動しており、仕事の合間を縫って競技の普及と発展の為、日々奔走しております。車椅子ソフトボールの日本での発祥は北海道であり、その発端・中心となっているのが多くの北海高校関係者です。不慮の事故で車椅子生活になった高51期の飛島大輔君(硬式野球部)が発端となり、前硬式野球部監督の大西昌美先生(現・北翔大学野球部監督)との二人三脚で競技の普及を始めました。

私が関わるのは競技を組織化して普及させることとなった2013年からですが、北海高校の多くの諸先輩・後輩の方々がこの競技をサポートしてくださり、北海道から始まったこの競技が今では全国にチームができるほど大きな組織となりました。車椅子ソフトボールはパラリンピックの正式競技ではありませんが、我々は正式競技採用を目標とし、いつかパラリンピックの金メダルを持って母校に凱旋報告できるよう頑張りたいと思います。応援よろしくお願いいたします。

叙勲受章者

高校12期　村上一元
平成28年9月14日
文部科学省 生涯スポーツ功労
北海道アイスホッケー連盟副会長
平成28年9月15日　道新朝刊に記事あり

高校13期　三井辨雄
旭日重光章
平成28年11月3日　道新朝刊に記事あり

高校15期　小泉清彦
平成27年10月20日
平成27年10月30日
平成27年11月3日
厚生労働大臣表彰
札幌国税局長表彰
端宝単功賞受章

平成28年度　校友会活動経過報告

4月 9日　北海高等学校 入学式
4月 9日　東北支部総会･懇親会
4月10日　北海学園札幌高等学校 入学式（会長出席）
4月21日　第1回 会則変更特別部会会議
4月25日　会計監査
5月12日　第1回 正副会長･常置部会議
5月13日　校友会奨学基金運営委員会会議
5月19日　第1回 幹事会
5月27日　《全国支部長会議》･《総会･校友の集い》（当番期 高校36期）
6月 9日　第1回 組織強化部会議
6月18日　校友会奨学基金奨学生認証式
6月24日　札商 校友会（会長出席）
6月25日　西日本支部 総会･懇親会
6月25日　江別支部 総会･懇親会
6月25日　教職員支部　総会･懇親会
6月28日　第1回 財政部会議
7月 5日　第1回 総務部会議
7月 6日　第2回 財政部会議
7月12日　第2回 総務部会議
7月14日　第1回 常任委員会
8月 2日　【全国高等学校総合文化祭弁論部門･文部科学大臣旗全国高等学校弁論大会 最優秀賞】
8月 4日　第1回 広報･名簿部会議
8月 4日　第3回 財政部会議
8月21日　【全国高校野球 決勝戦 北海高等学校 準優勝】
9月 7日　第2回 広報･名簿部会議
9月10日　旭川支部　総会･懇親会
9月24日　北海校 応援団OB会 総会･懇親会
9月27日　第3回 広報･名簿部会議
10月 1日　十勝支部総会･懇親会
10月 6日　第2回 常任委員会
10月 8日　東京支部　総会･懇親会
10月16日　『土井晩翠先生が作詞した校歌を一緒に歌いましょうの会』15名出席
10月21日　第4回 広報･名簿部会議
10月26日　第3回 総務部会議
10月29日　オホーツク支部　総会･懇親会
11月 4日　第3回 常任委員会
11月 8日　北海学園札幌高等学校（札商）校友会会長 櫻井 勝様ご逝去 お通や出席（金井 会長）
11月12日　道南支部 総会･懇親会
11月12日　陸上競技部OB･OG会 総会･懇親会
11月24日　第4回 財政部会議
12月21日　野球部･弁論部 校友会優秀表彰記念品授与式（全校集会）予定

▼以降常任委員会･各専門部会議は随時開催予定

【平成29年】
2月28日　校友会 入校式 《高校69期》（予定）
3月 1日　北海高等学校 卒業式（予定）
3月中旬　第2回 幹事会（予定）



1931年に建設された木造校舎（2階建）は、老朽化で耐震性に不安があり本年5月に解体し年内に新校舎（3階建）が完成する予定です。校舎は主に普通教室、コンピュータ教室、進路室、購買の配置を予定しておりより充実した環境になります。
北海高校4号館（仮称）　2016年　年内完成予定

【平成28年度】高校第68期 校友会クラス幹事

▼1組　斎藤友哉　岡野美祐
▼2組　佐藤勇気　二木春奈
▼3組　○一瀬隆也　○大川愛乃
▼4組　石崎雄成　本間和希
▼5組　木村瞭太　秋場紀花
▼6組　丸橋弘幸　中山絢乃
▼7組　佐々木健人　星 大地
▼8組　◎中村綾花　熊倉鴻希　阿部真子
▼9組　生瀬陽大　小澤紘乃
（◎印代表幹事・○印代表副幹事）

編集後記

今年も事務局をはじめ多くの関係者の皆様方のご協力をいただき、「北海 校友だより」第57号を無事発刊することが出来ました。寄稿をいただきました皆様方には、厚く御礼申し上げます。

今年度の校友だよりは、特に若い世代の校友をはじめ幅広い世代の皆様に読んでいただけるように、より「わかりやすく」「見やすい」会報を目指し、編集会議を重ね、デザイン・構成を全面的に刷新し、新たに「ＨＯＫＫＡＩ ｉｓｍ」（北海イズム・新聞形式・フルカラー）としてスタート致しました。

◆ｉｓｍ〈イズム〉意＝主義・主張「持論を強く持っている」北海生が心のうちに秘めている誇り、「北海魂」「北海プライド」「スプリット」などの総称として、新校友だよりのタイトルに採用させていただきました紙面一面トピックスでは、母校北海高校が目指してきた文武両道の教育伝統（建学以来の基本精神：質実剛健・百折不撓は勿論ですが）が実現され、硬式野球部が第98回全国高校野球選手権大会で見事に準優勝の栄冠、また弁論部３年生 中川梨花さんが第40回全国高等学校総合文化祭弁論部門で最優秀賞・文部科学大臣賞受賞という「運動部・文化部」共に目覚しい活躍をご紹介しました。

今後とも校友の皆様から、各地の話題・会員の動静・同期会開催の報告等のお知らせを「校友会ホームページ・フェイスブック」を含めてご協力をお願い申し上げます。

広報・名簿部長
松 岡 樹 雄（高校29期）

北海校校友会公式 face book 更新中